

---

# 魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 孤独の歌 ~

灯火

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers ～孤独の歌～

### 【Nコード】

N6348Z

### 【作者名】

灯火

### 【あらすじ】

30年間の人生に幕を閉じた…はずだったんだけど…  
前世とは違う人生、前世とは違う容姿、前世と変わらない境遇、目的もなく、目標もない、そんな空っぽな2度目の人生。  
けど…そんな中、出会った少女の笑顔は…なんだか…暖かった。

## 第一話「人生30年？」（前書き）

小説を書くのは初めての上、作者はリリカルなのはをそこまで深く分かってないので、多々至らない点がありますが、よろしく  
願います。

## 第一話「人生30年？」

仕事の帰り、ふと考えた…

生まれてそろそろ30年、俺はいつたい何をしているんだろうか？

仕事内容以外で誰かと最後にしゃべったのは、いつだっただろうか？

家族…は初めからいなかった、友達…は作らなかったのか作れなかったのか、まあ存在した覚えはない。

夢…特にない、趣味…特にない、目標…立てたことがない、ただ毎日仕事に行つて、帰つて、寝る。

毎日毎日それを繰り返すだけ…あれ？なんのために俺、生きてるんだろう？

「人間元来一人で生まれて一人で死んでいくのである」ってのは、誰の言葉だったか？

…うん

…死のう。

でもどうやって死ねばいいんだ？

出来ることなら楽に死にたい、苦しんだりせずに一瞬で…

そんな事を考えながら歩いていると、ふと目の前の横断歩道に少女が見える、信号は…赤い色で、馬鹿みたいなスピードで車が走ってきていた。

意識する前に、体は動いて、少女を車の前から突き飛ばした。

眼前にゆっくりとスローモーションのように迫る車、法定速度って、守る奴いるのかな？

頭に浮かぶのは、今までの人生…あれ？…これ背景違っただけであんなま変わんねえぞ？

…まあでも、このスピードなら痛みを感じる暇もないだろう。

ある意味、よかったのかな？

そんなことを考えながら、俺の人生は幕を閉じた。

…はず…だったんだけど…

第一話「人生30年？」（後書き）

導入編？

はじめての小説におっかなびっくりで…Orz

## 第二話「魔法都市？」（前書き）

導入編は3話までの予定です。

出生、転機となる場面までは、できるだけ詳しく書きたいのでご了承ください。

## 第二話「魔法都市？」

真っ暗だ。

俺。どうしたんだっけ？

確か…仕事の帰りに死のうと思いい立ち、んで幼…女の子をかばって車に…

俺死んだよな？うん、あのスピードの車と衝突したんだし死ぬはうだよな？…ね？

ここが死後の世界ってやつなのかな？

なんかイメージと違う。

頭を整理しながら、考える…

死のうと思っすぐ死ねた、しかも痛みを感じる間もなく、これは神様に感謝しないといけないな…俺無神論者だけど…神様ありがとう！！

しかし誤算が一つ、

死んでも意識がある

これには正直困った、死んだら意識なんかなく何も感じなくなるんだとばかり思っていたが、意識はしっかりしてるし、なんか生温か



いし、息苦しい……うん？

息苦しい？んなばかな、何で死んでるのに息苦しい？死んでも呼吸  
つてするのかな？

しないよな？

予想と違う状態に戸惑う俺、さらに追い打ちをかけるようにいきな  
り全身が絞め付けられた。

「 !?!?!? 」

痛い、とんでもなく痛い、痛みも感じるのか！

声も出ない！

何かに引っ張られるような感覚、急に辺りが眩しくなった。

「 もう少しですよ！頑張って！ 」

なにを？

「 今頭が出てきましたよ！もう一息です！ 」

頭？なんの？

「 赤ちゃんも頑張って！もうすぐ出られるからね！ 」



そして、自分のことで頭がいっぱいだった俺は、母親であろう人物の複雑な表情に気が付いていなかった…

## 新生児室

あれから、丸一日たった。俺ははまだ整理のつかない頭で状況を確認していた。

?俺は猛スピードの車に轢かれて死んだ…はず

?ただどなぜか生きていて、体は赤ん坊になっている

?転生?

?プレートに書いてある文字が読めない…てか何語?周りの機械も見たことないし…

?なんか眼がチカチカするっていうか、変なオーラが見える

?俺の母親であろう人物は一度も俺を抱いていない(てか顔もろくに見てない?)

まあ…?はどうでもいいとして、重要なのは?…?だ。

まず、?…認めたくないが、状況的に転生って考えるのが一番しっくりくる。

次に、?…見たこともない文字ってことは、ここは外国?でもしやべってる言葉は普通に聞き取れる。

となると考えられるのは…別の世界?

最後に、？…これが一番の問題だ、なんかハウスタストのCMみたいな、なんて表現したらいいのか、細かい粒みたいなのが空中にたくさん浮いている。でも触ろうとしても触れない…なにこれ？

そしてなんか、看護師もそうだけど周りの赤ん坊もなんか、いろいろな色のオーラ？ってか光の膜みたいなのに包まれてる、てか俺も包まれてる…色は薄緑。

死ぬ前に、こんなものが見えた覚えはないから、過去に戻った。とかではなくまったくの新しい体と考えるのしかない。

よし、まとめよう…つまりは…

俺は人生に絶望して死にました でも神様の気まぐれで前世の記憶を持ったまま転生しました しかもここはどうやら前住んでたところとは違う世界っぽい しかも変なものが見える目のおまけつきだ

神様ってやつは…俺が嫌いなようだ もうやだ…この人生…

それからさらに、4日たった。

ケージの前に誰がいる、誰？この女の人

疑問に思っていると、近くにいた看護師が女性に声をかけた。

「退院ですね、外は暗いので気を付けてくださいね」

「はい、お世話になりました。」

ああ、こいつ母親か…初めて見たよ顔、変なオーラ？は緑色ね、はいはい一緒一緒。

そのまま俺は、母親？に抱かれて病院を後にする。

で、現在なんかどっかの建物の前にいる。時刻は深夜。

なんか門にプレートが貼ってあるってことは、何かの施設かな？…読めないけど。

で、この母親？かごに入れた俺を、門の前に置いて泣きながら何か言ってる。

「だから、ごめんね…ごめんね…貴方が悪いんじゃないのよ、あいつが…悪いの…」

えと…つまりは、どっかの男と子作り 捨てられた もう出産拒否できない日数がたっていた でもこの子を見ているとあの男を思い出すから一緒にはいられない 全部その男のせいだから、怨むならそいつを恨んで

知らんがな。

というか、今回の俺は特殊な例として、物心ついてない赤ん坊に何言っただって覚えてないだろう。

じゃあ、何のために？そんなの決まってる自分を正当化するためだ……うぜえ。

前の世界の母親も…そうだったのかな？生まれればつかの俺に、自分を慰めるためだけの言い訳を並べて、捨てて行ったのかな？

何かすげえ腹が立つ。怒鳴り散らしてやりたいが、悲しいかな「オギャア」ぐらいしか言えない身…転生したっていうのに、前と何も変わらない状況…いや、捨てられる様を認識できる分、今のほうが悪いか。

そして戯言を並べ終わった、母親？…いやもうどっかのおばさんは去って行った。

一人残された俺は、これからの事を考えていた。まあロクな施設じゃないよな…経験上

こうして、俺の2度目の人生は幕を開けた…けど、もう幕降ろしてえよ…

第二話「魔法都市？」（後書き）

話が思ったように進まない(; ;)

2話目で原作キャラの一人も出てこない体たらくORZ

小説書くのって難しいな;; ;

次回いよいよ原作キャラも登場して「なのは」らしくなってくる…かな？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6348z/>

---

魔法少女リリカルなのはStrikerS～孤独の歌～

2011年12月21日23時49分発行